



動き出した北陸のLRT

「あなたな～ら どうする？」

3
ペ
ー
ジ
関
連
記
事

活動報告

- 4月21日 月例会
- 4月29日 富山ライトレール開業
- 5月5日 LRTとまちづくりフォーラム
- 5月6日 かなざわ都市圏の近未来交通を考えよう・講演：服部重敬
- 5月20日 新旧路面電車の環境測定
- 5月21日 総会・パネルセッション
- 6月4日 サイクルフェスタ in 勝山 2006
- 6月1日 福鉄活性化協議会

- 6月10日 中部地区路面電車サミット in 豊橋
「座・タイムリー福井 (FTV)」出演
- 6月16日 えち鉄株主総会 出席
月例会

今後の予定

- 6月18日(日) LRT部会
- 7月21日(金) 月例会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

間違いだらけのクルマ選び最終版

徳大寺有恒 草思社1500円

ISBN4-7942-1462-6 C0053

我が家にクルマがはじめて来たのは昭和40年代の私がまだ小学生の頃だった。パブリカ1000といううるさいが良く走る車だった。その直後に父が買って来た初版の間違いだらけのクルマ選びを読み感動した。その頃から広告料をもらうマスコミの商品情報は眉唾で読まないといけなことを子供心に覚えた。

当たり前前に各社のクルマの悪いところ、良いところを書いたり、まだマイカー時代創生期だった日本人のクルマ選びを批判したりして痛快に面白い本だった。(特に私は国産車のカタログマニアだったので)著者は杉江博愛という立派な自動車評論家であったが、本業の仕事がクルマ雑誌からもらうためにはこのような本でも本名を隠さざるを得なかったのである。

中年の方々は育ってきたクルマ社会化途上の日本を懐かしみながらかつての名車の写真などを楽しまれたらいかがであろうか。でも、スーパーカーブームの小学校時代にそれには目もくれずこんな本を読んでいた私は大人びていたのだろうか。

美濃部 雄人 Minobe Yujin

= 第 2 回定例総会を終えて =

会長 内田桂嗣

NPO法人設立後、2回目の総会となります。会計の整理そして報告の方法や総会と同時に開催する記念行事をどのように持つかについて、3月から準備を進めました。NPO法人としての1年の総括であり、臨時理事会でも活動の振り返りからスタートしました。

また、記念行事は外部からの講師による講演というスタイルでなく、ROBAの会員が中心となるスタイルにしようと提案し、理事会で承認をいただきました。結果、北陸で動き出したLRTにスポットを当て、北陸の地域でLRT推進にむけた活動をしているリーダーに参加いただいて、「福井のLRTはどうすれば動き出すか！」という視点で、参加者を含めたパネルセッションという形をとりました。

関連行事として、LRTのパネル展(5月15日~18日県庁・県民ホール)と前日20日には福武線沿線で騒音調査を行ないました。参加者は30名相当でしたが、マスコミの関心も高く、事前告知の記事や翌日の新聞報道はかなり大きな紙面を割いていました。マスメディアもLRTそしてまちづくりと公共交通は社会問題として話題性があると考えているからでしょうね。

総会と言えば、その多くは「しゃん、しゃん、しゃん」ですが、視点を絞って参加者で考える機会がもてたことは良かったと思っています。これからも、「みんなで考え、みんなでアクション！」をモットーに息の長い活動をしましょう。

今回、総会に参加できなかった会員の方も一度例会に顔を出してみてください。

平成 18 年 5 月



総会の様子



福井鉄道低床型車両導入記念
写真展 / 鉄道友の会福井支部

ROBA総会を終えて

内田会長の挨拶、議案説明などが粛々と議事進行されていきます。何年も積み重ねてきた経験なのででしょうか、今年導入されたLRT並みのスムーズさです。

今年度の事業計画で、ROBAベンチの設置などは、福井県人の品格の高さ、優しさを感じさせるものです。(藤原正彦氏も賛同されるでしょう。)のりのりマップも林氏を中心に、のりのり度が加速され、4度目の改訂を計画しています。県内外での活動への参加も、今までの参加することに意義があるオリンピック精神から、福井にROBAありと存在感が出てきて、アカデミー賞ノミネートへの道を歩んでいるのではないかと思います。(少し、自画自賛でした。)

最後に、畑副会長のスローライフの提案もよくわかります。1年前のJR福知山線での大事故は、今の社会が早さ、便利さを追求し続けた結果ですからね。スローライフ、スローフードを見直しましょう。一度しかない人生を楽しみましょう。総会の日にあふさわしい薫風を受けながら、今年のホジロバのまちづくり計画を見せて頂き、楽しい日でした。

木下 浄祐

福井に 4 月 1 日から福井鉄道福武線に低床型路面電車が走り出した。それを受けて ROBA 主催のパネルセッション「動き出した LRT どうする福井の LRT 次の一手」と題して北陸 3 県で LRT 推進を目指している 3 団体の関係者と当会の内田会長を交えて、パネルセッションを行った。コーディネーターは林理事が務めた。

2 時 40 分、ほぼ定刻に開催された。はじめに、富山からは 4 月 29 日発車した、「ポートラム」の報告、高岡からは、「アイトラム」の走るまでの経過、金沢では、路面電車はないが、LRT の力説している様子、そして福井からは、現在の課題についてそれについての報告がなされた。

富山からは 4 月 29 日に開業した富山港線・ポートラムの詳細な説明があった。15 分ヘッドで所要時間約 24 分、2 輛 7 編成で運行開始、土曜、日曜、祝日は半額の 100 円、IC カードでの乗降、終点の岩瀬浜駅及び蓮町ではフィーダーバスとの連絡がされていることなどが報告された。

高岡からは、RACDA 高岡の活動、特に、乗って残す運動や公共交通への理解を深めるための出前勉強会（キャラバン）の紹介、又、新幹線開通後の公共交通のあり方について、模型を作り皆でワークショップをしている様子などについて報告があった。

金沢では、中心市街地が駐車場で虫食い状態になっている現状があることから、活性化のツールとしての LRT の普及を進めたいとの決意が披露された。また、5 月 6 日に行われた LRT の紹介イベントを開催したことの報告と、それが後日一般紙に大きく紹介され、金沢での LRT 発信の第一歩になったことを報告。

最後に ROBA からは福井鉄道に低床車輛が導入された紹介と、LRT 構築への希望が出てきたこと、更にそのための 3 つの提案を呼びかけた。と同時に福井における 2 つの地方鉄道の頑張り具合についても紹介がなされた。

その後、昨日実施した簡便法による福井鉄道の車輛の騒音、振動調査の報告があった。やはり、低床車輛の騒音、振動の低減が数字の上からも実証された。特にインファンド工法を実施した駅前線の騒音の低減は明確であった。また、クルマのエンジンふかし音の方が逆に大きいことも報告された。

その後、活発な意見交換が行われた。

福井市は公共施設が分散されているが、他都市はどうか？との質問に「富山」でも同じ状況である。高岡では、駅前に図書館や高校などの公共施設が入った再開発ビルができ、かなりの集客があることなどと回答。利用者の増加の要因として、富山からは全国の事例から定期券利用客をどう伸ばすかが経営安定の鍵、しかも通学よりも通勤客を増加させることが肝要と言及。高岡では、アイトラムは冷房が効いている、色も赤で目立つ、30 分に 1 本走っているので乗客増となっている。利用増の対策として富山市では高山本線の本数を増やす社会実験を予定していること、高岡ではスケッチ電車などのイベントを開催、両市とも電停がよくなったことが乗客増加に直接は関連が薄いという回答があった。

岐阜から岐阜地区鉄道新線計画の事業計画が近々、国土交通省に受理されるであろうとの報告、また岐阜からきた電車がすっかり福井の電車になりきったなどと感慨深い感想を述べていた。

参加者から、今日は「北陸おでかけパス」2000 円で高岡から来た、そして大野駅へ行ったら県外から来た方に 2000 円相当のお土産やらで投資したお金が返ってきた。このような利用増の仕組みをもっと広げていけば利用促進になるのではないかと感想が出された。

これを受けて、最後にコーディネーターから「つないで生かす」ことが如何に重要、そして、LRT の T は TOWN であるべきではないかと提案。今後とも、北陸 3 県のつながりをもっていくことが確認され、午後 4 時 40 分にパネルセッションは閉会された。参加者は概ね 30 名程度であった。

北陸おでかけパスを使い富山に着いたのは正午を少し過ぎたころでした。富山駅北口から出ると、一年少し前に見た閑散とした風景とはぜんぜん違う光景が広がっていました。ライトレール乗り場にはすでに大勢の人が並んでいて、係の人に聞くと1時間ほど待たなくては乗車できないとのこと。しょうがないので先に昼食とトイレを済ませ、1時少し前に列の最後尾に加わりました。待っている間に2回電車が到着して、大勢の乗客を乗せて折り返して出発しました。その間に、顔見知りの公共交通の研究者たちの姿を見かけました。京都大学の中川先生(富山県出身)や、関西大学の研究生の松原さんです。

3回目の電車にようやく乗ることができ、富山駅北を出発すると、駅前通を単線のサイドリザベーションとして北上し、しばらくすると右折して道路中央の軌道に乗り、「インテック本社前」(新設電停)に停車します。途中の交差点などでは、鉄道ファンが大勢構えていて、盛んにシャッターを押していました。そして、元の富山港線の線路に左折して進入すると、そこからは踏切で一般交通とは完全に分離された専用軌道になります。終着の富山駅北と岩瀬浜を除き、専用軌道の部分も含めて、駅・電停は電車の後方から先頭を見て左側(つまりバス・タクシーに乗ると同じ側)から乗降するようになっています。そのため、交換駅でない単線の駅でも線路を挟んで両側にホームがあります。また、すべての駅・電停に屋根と風防と折りたたみ式ベンチが備え付けられているので、快適な待ち時間を過ごすことができます。



富山駅北



乗降口



ホーム to ホーム / 岩瀬浜駅



女性運転手 / 富山地鉄

終着の岩瀬浜駅で下車すると、そこでも以前見たものとは別の光景が広がっていました。駅前広場が新しく整備しなおされてバスターミナルが新設され、LRTとバスの乗り場の間は向かい合って、完全に段差がない状態で乗り換えすることができる“ホーム・ツー・ホーム”というものになっています。鉄道とバスを乗り継ぐ場合でもこのような配慮がしてあれば、“乗り換え抵抗”を減らすことができ“シームレス”な移動が可能になります。

岩瀬浜駅のすぐ近くの集客施設「岩瀬カナル(運河の意味)会館」では、ライトレール開通記念の催しが行われていて、よさこいなどで盛り上がっていました。ここで生ビールを一杯、プファー。公共交通のいいところは、安心してお酒を飲めることですね。また、会場周辺は全面駐車禁止の措置がとられていて、イベント時にはマイカーを抑制して来場者にはライトレールを使ってもらおうという、富山の「TDM施策」の片鱗を見たような気がします。

富山駅北に戻るのも2回分の電車を見送って、3回目ようやく乗れました。富山駅北についたのは午後4時半ころでしたが、そのときでもまだ電車待ちの行列は続いていて、「ここが最後尾」「ただいまの待ち時間45分」と書いたボードを手を持った係員が電車待ちの行列を整理していました。最初に乗ったときにはそのようなボードがなかったので、私が岩瀬浜に行って帰ってくるまでの間に急遽作り上げたみたいです。このような“融通の利く対応”はすばらしいと思いました。

その後、富山地鉄市内線に乗り西町へ。路面電車に乗ってみると、以前来たときよりもだいぶ乗客が少なく、富山ライトレールのほうに乗客を吸い取られてしまったような状態です。路面電車としてはこちらのほうが“大先輩”なのにネ。

LRTだけではなく、電車に乗りまくった楽しい一日でした。

報告 / 塚谷康夫

金沢駅もてなしドームの地下に降りていくと、目の前にはおばさんたちが受付。かとおもいきや、お茶をどうぞとすすめられる。もてなし隊が金沢棒茶でもてなし、金沢を案内くれるそうだ。このドームがせっかくできたのに、何も案内がなくて結成されたとのこと（結成のきっかけは、行政から声を掛けられたためらしい）。会場は、その奥にあった。

参加者は40名ほど、パネルで仕切られた横を通りかかる人たちが、何をやっているのか覗き込んでいく。何人かが出入りしているので、述べ60名ぐらいになるだろう。外を通る人向けにもっとアピールするものがあったらいいなと感じた。

講演会の内容は、福井でもおなじみの服部重敬さんの基本講座という感じだったが、「カールスルーエの最長150kmの路線を北陸になぞらえると、富山LRTから北陸線に乗り込んで、金沢では香林坊を通過して再び北陸線に戻って、福井では福鉄に乗り込んで武生まで行くようなものだ」という例示が印象的で、かつ北陸のLRTの夢だなどおもいました。

報告 / 林 博



棒茶もてなし隊 / 金沢駅



シンポジウム風景

富山ライトレールとまちづくりフォーラムに参加して

060505

ゴールデンウィーク真っ最中の5月5日、富山市岩瀬のカナル会館で開催された「富山ライトレールとまちづくりフォーラム」に参加いたしましたので報告します。当日は朝9時に富山ライトレールの富山駅北電停に集合。公共交通とやま市民応援団の奥田代表と原田会員（全国鉄道利用者会議事務局長・富山市出身）が受付を行う中、既に多くの参加者が集まっていました。新聞も今日は最後まで密着取材だそうです。ポートラム（富山ライトレールのLRVの愛称）に乗って出発。この時間で既に多くの立ち席が出ていました。あと1時間もすると30分待ち、1時間待ちになるとのこと。さすがは日本初の本格的LRTだけあって大人気です。終点の岩瀬浜に到着し、カナル会館に荷物を置くと岩瀬のまち歩きに出発です。古い町並みを歩き、造り酒屋や古い商家に寄る。ガイドの方からこの界隈の商家から日本を代表する経済人が多く出ている事を聞く。ここ岩瀬では富山ライトレール開通を機に、民間が主体となって修景などのまちづくりを積極的に行っているようでした。

午後のフォーラムでは、福井ではおなじみの服部重敬さんの基調講演。ストラスプールやカールスルーエの話に改めてうなずくことしきり。特に北陸は並行在来線を含めカールスルーエモデルが適合する地域で、服部さんもそのあたりを強調してお話しされ、参加者には大いに刺激になったと思います。講演のあとはパネルディスカッション。富山、高岡、金沢、福井、全国からパネリストが出て、会場からの質問を先に求めてそれに各パネリストが回答する形で展開されました。私は福井からのパネリストとして参加しましたが、この形はちょっと迫力不足。再考の余地があると思いました。ここでは行政主体だった富山ライトレールの開業に関し、これからは住民参加が必要で、その仕組みづくりが求められること、富山ライトレールだけでなく、既存の軌道・鉄道等を含めた全体を一体的に盛り上げる必要があることなどが議論されました。収穫は中心市街地からの商業者の参加。パネルディスカッション、そのあとの交流会を通して常に議論の中心におられ、熱心に議論しておられたのが印象的でした。今後の公共交通とやま市民応援団との連携が期待されます。富山市民にとって重要な1日であったことを願いたいと思います。

（文・清水省吾）

サイクルトレイン・エコツアーリングに参加して

6月4日（日）えち鉄の企画であるサイクルトレイン&勝山市主催のエコツアーリングに参加した。午前10時福井駅から参加者約35名を乗せたサイクルトレインがスタートした。2両連結にして、1両には自転車、もう1両には乗客専用となっている。

ママチャリから本格的なロードレーサーまで様々だ。年齢も小学生から70歳代、好みの格好で参加していて、気軽な雰囲気だった。勝山駅からはバスで長尾山の会場まで移動。会場ではすでに自転車で溢れていた。

エコツアーリングとは自分の体力に応じて、自然を満喫しながら楽しくサイクリングをすることのようです。好転に恵まれ21kmを適度な汗をかきながら、走ることができた。



（サイクルトレイン・臨時電車）

このエコツアーリングは勝山市の企画であるものの、福井県バイコロジー推進協議会が協賛していて、環境と健康と観光と町おこしを連携させた取り組みで、山岸・勝山市長が実行委員長である。飯嶋副知事もあいさつに来られていました。

えち鉄のサイクルトレインとしては2回目ですが、職員が大忙しで私たちの面倒を見ていました。そんな大きな収入ではないと思いますが（赤字かもね）いろんな企画を継続することにより、電車が市民にだんだん近づいて行くのかな、と感じた1日でした。



（自転車置場となった車両）



（エコツアーリング・勝山駅前で休憩）

記・内田桂嗣



（開会式の様子）

中部地区路面電車サミット in 豊橋

参加: 内田、川口、岸本、高橋、三村、畑(報告)

会場: 豊橋公会堂



今回の中部地区路面電車サミット in 豊橋は、とよはし市政100年を迎えた記念祭の一環として開催されました。参加した一行は、各々の時間を気ままに旅しながら現地での集合となりました。(岸本さんと1日フリー切符を利用して市電を堪能してきました)800系を見れるかねえと話をしていて矢先に800形とすれ違い、おおおっと思わず口走ってしまいました。豊橋の800形はデザインを変えていないので懐かしい気がしました。また、会場の公会堂は昭和6年完成したロマネスク様式の建築物で、電停のすぐ前があるのでとても便利です。



コーラス: コーラス若草



コーラス: ふんけんクラブ



コーラス: カナリアの会

さてサミットですが、参加者の疲れを和らぐような催しから始めました。コーラスが女性のコーラス・男性のコーラス、そして池田さん率いるカナリアの会の市電唱歌の披露がありました。創作落語は伊奈さんの教え子の方が副業でやっておられ、市電物語という落語を聞くことができました。

この豊橋サミットは豊橋市民に向けたメッセージが強く感じられる内容で、各地の報告はそれぞれ5分ずつ行い、その後は地元の方を中心としたパネルディスカッションで進められました。利用者・店主・豊鉄・豊橋市・市電を愛する会のそれぞれの立場から、市電に対する思いや提案がされました。印象に残った言葉として、「年を取ると小銭を握り締めて電車に乗っているのは辛い、料金が先払いなので結構楽」「市電は市民が大事にしている市の誇り」「市職員が名刺に市電のイラスト入り」「マンホールの蓋にも市電」と言った内容でした。その理由として、市電は7分間隔で運行していますが、いつも満員でちょっとそこまで。で市電を利用している人が多く、電車に乗る事を身構えるのではなく、自転車感覚や車感覚で利用されていたためです。市電に関心のある人が多くいますが、残念ながら経営は赤字だそうです。安全な電停の確保やバリアフリーに力を入れるといいかも。この点、福井は道路幅員が広いので色々な対策が可能だな!と実感しつつ、「福井もがんばらねばならぬ」と会場をあとにしました。



創作落語: 成田屋 虚生 (副業らしい)



各地の報告: 全体風景



各地の報告: ROBA 内田さん



公開協議会: 豊橋市民の皆さんと
コメンテーターの服部重敬さん

18年度福井鉄道福武線活性化検討協議会 報告

内田桂嗣

日 時：平成18年6月1日 15:00～16:45

場 所：県民会館 306号室

メンバー：福井県総合政策部長（藤原部長）、総合交通課課長以下
担当メンバー 学識経験者 / 野嶋慎二

利用者 / 北陸高校校長、連合婦人会、ROBA

経済界 / 福井、鯖江、越前商工会議所

沿線市 / 福井市副市長、鯖江市助役、越前市副市長
（但し、いずれも担当課からの代理出席）

事業者 / 福井鉄道 山内社長

オブザーバー・福井運輸支局 中野企画調整官

内 容：福井鉄道山内社長&鈴置常務から17年度の利用状況の報告がありました。そのなかで、年間163万人の利用で昨年比100.7%だった。通勤定期は減少し回数券利用に移った。18年4月も前年同月比100.2%、5月も売上げがアップしており新型車運行の効果だと思う。

ROBAからは、「過去の提案と今後の検討課題」と題したペーパーを用意して、提案内容が実現している項目と今後取り組まなければならない課題を整理して再提案しました。

感 想：今回の協議会はいままでとは違いがありました。県が施策実現に前向きで積極的なことです。福鉄が軌道部の路面、路盤、電停の調査を今年度中に実施するのを受けて、駅の再配置、電停の移設、拡幅、交差点の右折方法見直しなどこれまでROBAが提案してきたことをことごとく実行に移す、あるいはその調査をすると言っています。（予算措置済）

えち鉄との直通運転の前準備とも言える。これまで50年間手を加えてこなかったわけですから、このアクションは良い形で電車を残してまちづくりを進めるという具体的な行動ではないでしょうか。

作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「個人的には、ガンバレ ウクライナ！」

塚谷(編集委員/見習い)

「ただ今、三国にて轟頂(ひいき)のサッカーチームが合宿中」

内田(発行責任者)

「次回から、塚谷さんの見習いを外すね！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>